

1. 評価報告概要表

作成日平成20年11月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	4093000059		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	二日市温泉長寿苑 そよ風		
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫野市武蔵 1 - 1 - 24		(電話) 092 - 923 - 4366

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価確定日	平成20年11月14日

【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	9人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	500,000円	有りの場合 償却の有無	期間 30ヶ月	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1日当たり 1,400円			

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護 1	3 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	名		
要介護 5	名		要支援 2	名	
年齢	平均 81,3 歳	最低	58 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院・牧病院・立山歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな高台にあるホームは平成19年12月に開設し現在に至っている。ホームの玄関を入ると広いリビングがありにこやかな笑顔の利用者と職員が共に過ごす姿が見られ、利用者其々が安心して暮らしていることが窺い知れる。隣には母体が同じ有料老人ホームがあり行事等合同で催すなど連携を図っている。しかし、周りに民家や商店等が少なく近隣、地域との交流がまだ希薄であるが、ホームは運営推進会議等で地域との交流を深めようと出席者に呼びかけ、小、中学生の体験学習を受け入れる等取り組んでいる。このように、管理者、職員が利用者と共に地域に根付いたホームとなるよう努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 :外部4)
	初回の為、該当なし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 :外部4)
	会議にて評価について管理者が職員に説明し、自己評価項目を全職員其々に記入してもらい管理者がまとめ再度職員に報告した。自己評価を記入することで更にホームの現状を把握することができ、サービスの質の向上の為に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 :外部4,5,6)
	区長、民生委員、社会福祉協議会担当者、地域包括支援センター担当者、家族等の出席があり ホームの現状報告、利用者の生活状況の報告を行い、出席者から助言や提案をもらっている。現在の課題である地域との関わりを深める為話し合いにて取り組んでいるところである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映 (関連項目 :外部8,9)
	家族の面会時に管理者、職員が声をかけ聞き取り対応している。家族会を年に2回開き家族の思いや要望を聞き取っている。
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目 :外部3)
	大きな幹線道路から入り込んだ丘の上にホームがあり周りに民家が少なく、近隣の方との交流の機会や、地域とのふれあいの場が少ない現状であるが、小、中学生の体験学習の受け入れ等積極的にしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	「あせらずゆっくりあなたの自立を支援し地域とのふれあいを大切にします」このホームの理念は開設時に管理者、職員と話し合い作り上げた。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビング等誰でもが目につく場所に理念を掲示し、日々のケア時に職員が確認している。また、管理者はせかすことなくゆっくり利用者とお過ごすことを職員に指導している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会等には入会しているが、近隣に民家が少ないこともあり地域との交流がまだ希薄である。小、中学生の体験学習の受け入れ等は積極的に行っている状況である。		開設から日も浅い為、運営推進会議等を更に活用し地域の情報収集を試み、できる事から取り組んではいかげだろ うか。また、町内会に入会しているので、さらに地域の活動に参加するなどし地域の方々にホームの存在を知ってもらい、地域とのふれあいを大切にしますという理念をさらに実践することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が会議にて職員に評価の意義を説明し、自己評価の項目を職員其々に記入してもらい、管理者がまとめた。自己評価を記入することで更にホームの現状の把握ができ、特に地域との関わりや、勉強会の強化等取り組みを行っている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催し、区長、民生委員、社会福祉協議会や地域包括センターの担当者、家族(2名)法人関係者等の出席がありホームの現状、利用者の暮らしの報告を行い、出席者と課題に上げている地域との関わりについて話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営面等で不明なことがある場合は市の窓口に行ったり、電話にて相談し連携を図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修に参加し報告書を回覧している。パンフレット等の準備はしており、玄関に置き、必要な人には説明できるようにしているが、家族等には説明は行っていない。		制度に関して報告書の回覧は行っているが、職員が周知するに至っていない為、内部研修を実施することが望まれる。また、家族にパンフレットを渡し、必要に応じ説明することで家族への安心感を与えることができるのではないだろうか。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や利用者の状態の変化に伴い報告すると共に季刊紙を発行し職員の異動や利用者の暮らしぶりを知らせている。また、行事や外出の折写真を撮りアルバムを閲覧できるようにしている。金銭に関しては、預かり金の収支を領収書と共に家族に確認してもらいサインを頂き残高との照合をしてもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には職員は必ず声をかけ、意見や要望を聴き取り、要望に対しホーム全体で話し合い対応をしている。家族会を年に2回開催しており、意見交換やヒヤリハット、事故報告を行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間での異動は職員のバランスやその他の事情で必要最小限に留めている。異動の場合は、引継の担当者が新しい職員に引継ぎを行っている。異動や退職の場合はホーム便りで報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に当たっては年齢や性別等に条件は無い。職員は幅広い年齢層や男女のバランスを考慮している。採用後は本人の特技を業務に活かせるよう配慮し、趣味活動が継続できるようにソフト調整を行っている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	隣にある有料老人ホームと合同会議にて責任者が接遇や人権に関して職員に話をしている。ホーム内に於いても言葉使いや利用者に対する態度など管理者が随時話し、職員に伝えている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	隣の施設との合同の定例会にてスキルアップを図る研修を取り入れ、その時々に応じた議題を決め学習している。ホーム独自でも月に1回ミーティングを開き課題に対し研修を行っている。外部研修には随時参加できるよう希望を取っている。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同市のホームに見学に行く予定であるが、他のホームとの交流は無い状態である。		グループホーム協議会等に入会すると他のホームの情報収集ができれば、職員同士の交流も増えホームの現状の確認ができ、更なるホームの質の向上が図られるのではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、本人、家族の見学、自宅訪問を行い情報収集し顔見知りの関係を作っている。また、体験利用も必要に応じて受け入れている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>昔の生活の知恵や料理の工夫等を職員が教えてもらうことが多い。また、昔話をすると利用者は生き生きし職員は昔を知ることができる。職員は利用者の嫁や孫のような関わり方をする事で家庭的な雰囲気を出している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式の1部分を活用し日常生活の中で本人に意向を聞き取り記録をしている。家族にも要望や本人の情報を確認し本人の思いの把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者と家族・職員が話し合い主治医の意見も考慮しケアプランを作成している。ケアプラン作成後に再度職員全員と話し合いを行ない、本人の意向を確認した計画を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプラン実施記録を用い毎日のケアで計画が実施されているか全職員で確認をしている。月に1回のミーティングにて見直ししながら検討会議を行い、3ヶ月に1回計画を見直し本人の状態に合わせ計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望にて受診時の支援を行っている。特に車椅子利用者はホームの車での受診送迎等の希望が多い。介護セミナーを開催し家族に案内を行い参加することで利用者への対応等理解が深まっている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を尊重し継続して医療を受けられる体制を取っている。また、緊急時には近隣の病院での受診になることもあるが、本人、家族に了解してもらっている。協力医が月に1回は利用者の様子を見に訪問し状態の変化等相談をしている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に本人、家族の希望を聴き取りできる事等を説明している。また、利用者の状態を確認し対応している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーを尊重し言葉かけなど注意を払うことを管理者は会議にて職員に話している。個人情報の取り扱いに関しては本人、家族と同意書を交わし、個人の記録等は鍵の掛かる書庫に保管し個人情報の保護に努めている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはおおまかに決まってはいるが、強制するものではなく本人のペースや希望に合わせて1日を過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は1階の厨房にて調理されたものが出されるが、朝、夕食はホームで職員が調理し利用者職員が共に食事をしながら和やかな会話を楽しんでいる。本人の力に応じ下ごしらえや後片付けを職員と共に行っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を設けているが、本人の希望で毎日入浴する利用者もいる。入浴を拒否する利用者へは、清拭や声かけにより入浴し清潔保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技や能力に応じ洗濯物をたたんだり食事の後片付けや畑仕事など役割がある。また、季節感を味わえるようドライブ、花見や公園に散歩に行ったり弁当を作って出かける等楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りを散歩したり畑に行き野菜の成長を観察し収穫をすることや戸外で体操をする等できるかぎり外出の機会を作っているが、利用者個々に対応したのではなく全員一緒に出かける為、本人の行きたい場所への外出が難しい。		利用者全員が同じ場所へ出かけることも楽しみではあるだろうが、個々に行きたい店や見たい景色等があるのではないだろうか。利用者個々の希望を確認し個々に対応することも検討してみたいか。
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホームの玄関は施錠していない。以前は事故防止の観点から時間帯で施錠していたが、利用者の状態が落ち着いてきた為施錠せず職員が見守りを行い自由に出入りできる環境となっている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣の施設や1階の事業所と共に合同で年に2回避難訓練を実施しているが夜間想定訓練は未だ実施されていない。消火訓練、救急救命など消防署と連携し訓練する機会を作っている。		避難訓練や消防署との連携は取れているが、夜間を想定した訓練の実施や地域の方の協力体制がどれくらいあるか等を検討し利用者、家族、職員も安心して過ごせるよう取り組んでいただきたい。また、災害に備え備蓄品などを準備することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作成し、栄養バランス、カロリーを考慮した食事となっている。利用者個々に食事摂取量、水分摂取量を記録し体調管理に役立てている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには共有のソファが配置されゆっくりと過ごすことが出来る。壁や棚には利用者の作品が飾られ日々の暮らしが窺い知れる。浴室には広い窓があり入浴時に自然の緑を鑑賞でき楽しみにしている利用者も多い。トイレ等も清潔に保たれている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には広い窓があり窓の外の緑を眺められ明るく、入所前からの使い慣れた物も配置され利用者其々が暮らしやすい環境となっている。		